

aiimeguyuu さんの体験記第 1 4 話です。

4 月。眠っている私にも暖かな日差しが当たるようになってきた。
いつも公園に僕を散歩に連れていく母が、「たまには一緒に行ってみない？」
と言った。普段なら断る私だが、なんとなくいけそうな気がして「うん。」と返事をした。
衣替えの服を旦那に持ってきてもらってないので、まだ冬服のまま。
ゆっくりとベビーカーを押し、公園へ。
もうすぐ 1 歳だが、気が早い母は滑り台とかブランコとかにもう乗せている。
抱いてブランコに乗ってみる。
ほほをなでる風が春を感じる。
同じようにあそばせに連れてきているお母さんたちをみる。
何人かは友達と楽しそうに、いくにんかは幾分退屈そうに子供を見ている。
ブランコに乗せにくらいなら私にもできるかな。
何となくそう思った。
病院に行って話すと「大進歩だね」と喜んでくれた。
タクシーで行っていた病院も電車で行けるようになった。
そういえば生きる意欲とは言わないまでも、死にたいとそんなに思わなくなってきた。
何が原因？といわれると日差し？あたたかな光が心を解きほぐしてくれているような気がする。
もちろん薬の効果や周囲の協力のおかげもあると思うが、私が思ったのは、光。だった。

(続く)